

「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発領域2011年度領域シンポジウム

未曾有の大震災からの本格的復興とは —地域に根ざした脱温暖化の復興戦略を設計する—

参加者の議論に基づく まとめ

2011年5月16日

まとめの議論への参加者：約180人

シンポジウム出席者：延べ285人

基本精神（1）

1) 覚悟を決める

いのちへの感謝と責任

その地に生きる覚悟を支援

食と水が基本

地域生存への覚悟・新しい自治

通常的发想からの脱却

（これまでの専門家の発想を超える）

長い海岸線、集落を一律に扱わない

本格的再生をめざす

科学者・技術者は専門家としての役割を

果たす

勉強会・作戦会議を続ける

基本精神（2）

2) 市民重視

**計画は地区ごとから（専門家は議論を支援）
（セレモニーとしての合意形成理念を越える）**

地元の知恵を生かす

地元が得た知恵は地元に着させる

人海戦術を軽視しない

地域経済活力（地域がまちづくり会社を）

基本精神（3）

- 3) ひきだす・つながる（ネットワーキング）
まず「行って話を聴く」・熟議する
顔の見える関係を作る
時間の中でつながる（風化させない）
世代をつなぐ（若い人の力を生かす）
地域・自治体の助け合いをつなぐ
企業と市民をつなぐ
立場を超え市民として新しい自治を作る
多数の世話役（ファシリテータ）が必要

基本精神（４）

**4) 使える技術（適正技術）を使いこなす
縦割り・従来型設計基準の見直し
現実的で挑戦的な検討（エネルギー, 多自然）**

5) 制度・大計画を変える

**地域から環境エネルギーシステムを構築する
（原子力、発送電、廃棄物処理等）**

復興支援：事後処理で済むもの等の特例処置

雨ニモマケズ

この宮沢賢治の有名な詩のポイントは、「行く」ということだ、
と弟宮沢清六氏が語ったという（龍谷大学文学部鍋島教授より）

雨ニモマケズ
風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ
慾ハナク
決シテ瞋ラズ
イツモシヅカニワラツテキル
一日ニ玄米四合ト
味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ
ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ
ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
小サナ萱ブキノ小屋ニ坐テ
東ニ病氣ノコドモアレバ
行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ
行ッテコハガラナクテモイッタイヒ
北ニケンクワヤソシヨウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒドリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ
ホメラレモセズ
クニモサレズ
サウイフモノニ
ワタシハナリタイ